

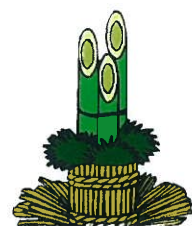
タカクラストーンズ




2009年 新春号 Vol.1

本号のトピック

- ニュースレター『タカクラストーンズ』創刊のご挨拶
- 弊社専務よりご挨拶
- 砥石って??
- 弊社の取り組み ～5Sに取り組んで～



発行元 研削・研磨の専門的ソリューション企業
 高藏工業株式会社

■ ニュースレター『タカクラストーンズ』創刊のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

本年も宜しくお願い申し上げます。

年が明けてのいきなりの“タカクラストーンズ”。「タカクラストーンズ!? なんだそれ?」「タカクラがなんか持ってきたぞ」なんて声が聞こえてくるような気がします。さて、弊社は、昭和14年創業以来、お客様のご指導のもとに、研削・研磨の専門的ソリューション企業として成長を続けてくることができました。今まで以上に、お客様に「タカクラってこんな会社なんだ」と親近感を持っていただけたらという想いでニュースレター『タカクラストーンズ』を創刊させていただきました。この『タカクラストーンズ』を通じ、少しでも弊社に関心を持っていただければ、皆様とのつながりをより強くできたら、こんなに嬉しいことはありません。



写真は、愛知県春日井市にある本社事務所と工場です。

■ 弊社専務よりご挨拶

皆様、こんにちは。専務の高橋保雄と申します。

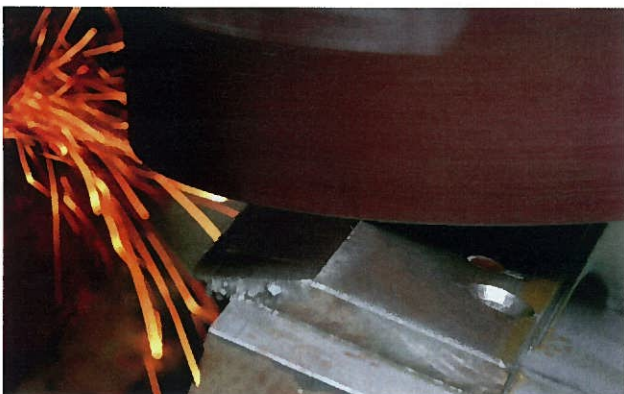
このたびの『タカクラストーンズ』創刊にあたり、まず皆様に、私達の経営に対する想いをお伝えさせていただきたく存じます。

私達は、「お客様・社員・会社すべてが幸せになれるように」



という理念に基づいて経営しています。綺麗ごとかもしれませんが、この三者のいずれかが不利益を被っては、企業は長続きしません。また、成長もできません。社員一人一人がお客様のために仕事をし、お客様に喜んで頂く、そして、お客様からその対価としてお金を会社が頂き、会社が社員に還元する。この循環が好循環になると三者が幸せになれると思います。言葉でいうのは、簡単なことではあります。しかし、昨今さまざまな外部環境が変化する中で常に好循環を生むのは難しいのが現実です。人が幸せを感じる瞬間は、物質的な豊かさと精神的な豊かさを得たときだと思います。物質的な豊かさを得たときは確かに嬉しくこの幸せを感じることは大切なことだと思いますが、次は「これがほしいあれがほしい」と繰り返され、この豊かさだけでは永遠に幸せになれないと思います。しかし、お客様のお困りごとに対し一生懸命に考え、努力してお役に立ち、「タカクラさんに相談して本当によかったよ!」と感謝の言葉を頂いた時は、精神的な豊かさを感じます。また、一緒に働く同僚や先輩・後輩と協力し合って「本当に助かったよ!」と感謝の言葉を掛け合った時も、精神的な豊かさを感じます。この幸せの積み重ねがお客様との信頼を培い、また一緒に働く社員同士が信頼で結ばれ、そしてその信頼が、お客様・社員・会社の三者が信頼で繋がることにより、すべてが幸せになれるのだと思います。これからも一つでも多くの喜びを分かち合い、研削・研磨の専門的ソリューション企業としてお客様と一緒に成長出来る会社を作っていきたいと思っております。ご指導宜しくお願い申し上げます。

高藏工業株式会社 専務取締役 高橋保雄



←刃物（下部）を研磨している写真です。

砥石は、自らを削って被削物を研磨します。砥石と共にお客様のお役に立てることが弊社の喜びです。

■ 砥石って??

一般的に「砥石」と言われて思い浮かべる形は、どんな形状でしょうか？ 恐らく多くの方が、包丁を研いだりする縦長の羊羹（ようかん）形をした「砥石」を思い浮かべるのではないのでしょうか。

しかし、一口に砥石と言っても、じつは様々な砥石が存在します。刃物・ベアリング・医療用注射針・タイル等といった加工物を研磨し、また切断したりするための砥石です。

ところで、この砥石はどんな要素で構成されているのでしょうか？



↑刃物等を研削するリング形の砥石。

▼ 研削砥石を構成する3要素

研削砥石を構成しているものとして以下の3要素があげられます。

- i 砥粒：切刃として、加工物を削る主要な働きをします。
- ii 結合剤：砥粒を結合し、保持する役目を果たします。
- iii 気孔：砥粒と結合剤の間にある隙間。切削の逃げを助ける役目があります。

以上の3要素がバランス良く配合されたとき、研削砥石はその力を発揮するのです。

▼ 研削砥石を焼成（しょうせい）する炉！

研削砥石をお客様の仕様に合わせた形に成型した後、いよいよ焼き上げ工程に入ります。この焼き上げ工程で重要なのが“炉”です。

ところで、皆さんは、どんな炉で、どのように焼き上げると思われますか？ 陶芸家のように燃え盛る豪火と格闘して焼き上げる！？・・・のではありません。

下の写真のような大人が十人程入ることができるくらい大きな炉で、電気によって200度程度で焼き上げるのです。電気炉なのです。



←弊社の標準的なサイズの電気炉です。

重さが数十キロもあるような大型の砥石は、リフトで炉につめます。

- 弊社の取り組み ～5 S（整理・整頓・清掃・清潔・^{しつけ}躰）に取り組んで～
ご存知の方も多くいらっしゃると思いますが、弊社では、製造部を中心に「5 S」に積極的に取り組んでいます。



上の写真は、誰の目にも備品の整理及び整頓が分かるようにした弊社での取り組みの一例です。砥石をプレスで成形する際に使用する金属板を整理・整頓しました。砥石の大きさに基づいて色分けし、各金属板の厚みを表示することにより、保管すべき場所を示してあります。

これにより、誰でも備品を正確に迅速に取り出し、使用後は元の場所に戻せる状態を作り出すことにより、作業効率を改善しました。

これからも弊社では、お客様により良い製品をお届けする為に、5 Sに取り組んでまいります。

- 当ニュースレターに関しまして、ご意見・ご感想などございましたら、下記までご連絡ください。
- 今後、当ニュースレターがご不要の方は、大変勝手ではございますが、下記までご連絡いただきたくよろしくお願い致します。

研削・研磨の専門的ソリューション企業



高藏工業株式会社

本社・工場 〒487-0024 愛知県春日井市大留町77番地
TEL 0568-51-0111 (代) FAX 0568-51-0025
名古屋営業所 〒487-0024 愛知県春日井市大留町77番地
TEL 0568-51-1201 (代) FAX 0568-51-0025
e-mail takakura@tkknet.co.jp